

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年4月18日 NO.4

花ちゃん 「うーん。わかんないわ。どうしてかな。何（なん）でだろう？」

オー君 「花ちゃん、どうしたの？何をそんなに考（かんが）えているの。」

花ちゃん 「あのね。今、校庭にタンポポの花がさいているでしょ。

そして、綿毛（わたげ）になったでしょ。

そしたら、不思議（ふしぎ）なのね。」

オー君 「だから、何が不思議なの。」

花ちゃん 「タンポポの花がさいていた時は、タンポポが
とっても地面（じめん）にちかくにさいていたの。
それが綿毛（わたげ）になったら、何だか、
タンポポのせが高くなったみたいなの。」

モンタ博士 「花ちゃん、すごい。タンポポのせが高くなった
ことに気がついたんだね。それはすばらしい。
すごい発見だ。さらに、それがどうしてか、
♪何でだろう何でだろう、何でだ何でだろう♪
と考えたことはもっとすばらしいね。」

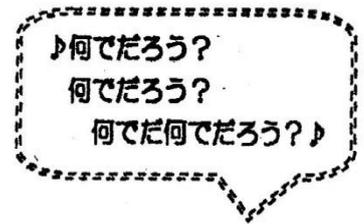
オー君 「モンタ博士、その何でだろうという、お笑い
の人はこのごろあまりテレビに出てないね。」

花ちゃん 「そういえば、次から次と新しい人がでるね。」

モンタ博士 「まあまあ、そのうちまたテレビにでるだろうね。

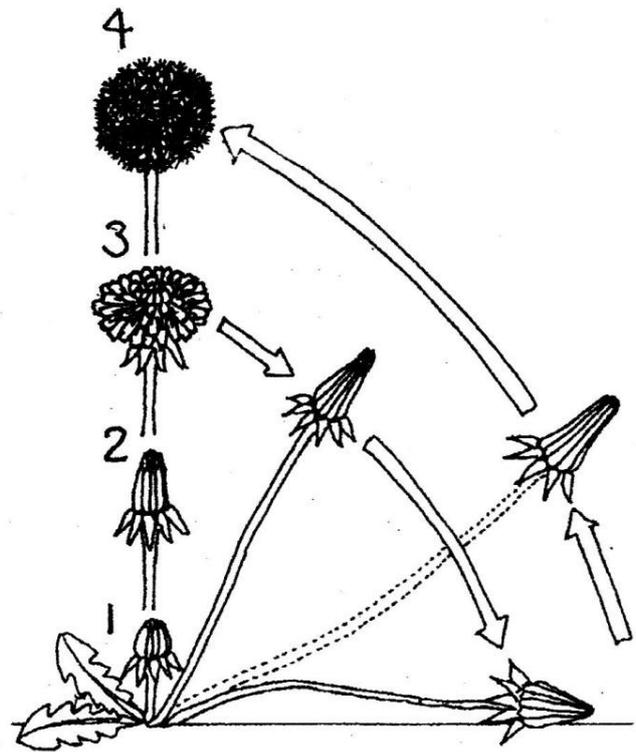
ところで、どこにでもあるタンポポ、小さな子どもも知ってるタンポポ、み
んなが知ってるタンポポ・・・でも、そんなごくありふれたタンポポでも
よく注意ぶかく観察したね。えらいね。花ちゃんはすごい。パチパチパチだ。」

そこで、とつぜん、オー君はダッシュして、校庭のタンポポをもってきたとさ・・・。



オー君 「本当だ。たしかに少しせ
がのびている。でも、
どうしてなんだ？」

モンタ博士「それはね、つまり右の絵を
見ればわかるかな。まず、
タンポポは1のつぼみの時
から2のつぼみへと伸びる
んだ。そして、さらに、茎
をのばして3の所で花をさ
かせるんだ。タンポポは
2～3日、花をとじたり
開いたりするんだ。そして、



花が終わると一度、地面にたおれるんだよ。それからが「ひ・み・つ」なん
だよ。たおれたタンポポは花の茎（くき）をのばし、またおきあがって4の
所までいくのさ。だから、せがのびたようにみえるんだ。そこでだ。ここか
らが大切だよ。どうして、タンポポはそんなことをするんだろうね。」

オー君 「きっとせをのばしたほうが、何かつごうがいいんだね・・・。」

モンタ博士「その通りだ。ピンポーン。とてもいい所に気がついたね。」

花ちゃん 「花はなぜさくかといえは、人によろこんでもらうためではなく、花をさか
せたねをとばし、子孫（しそん）をふやすためよね。それと関係ありそうね。」

オー君 「そうか、わかったぞ。せを高くしたほうが、たねを遠くへ飛ばせるんだ。」

モンタ博士「さあ、みんなでタンポポ綿毛のっぼチャンピオンさがしゲームを始めよう！」

タンポポの綿毛のっぼチャンピオン探しには・・・

タンポポは種の保存発展のため、より遠くへ種を飛ばすために、より高く花の茎を伸ばす努力をして
いる。綿毛のっぼチャンピオンさがしをする場合に、ただ長い短い綿毛を見つけただけで喜ぶのでは科
学的な面白さはない。花茎の長さは、周りの環境（かんきょう）との関係から成り立っていることを子
どもたちに考え、気づかせたいものである。周りに背の高い雑草や塀がある場合には、必ず高くなるの
である。その反対に周りがよく刈り込まれている所などは、それほどの高さにはならない。また、背の
高いタンポポの出現は、その地域の動植物の多様性の豊かさや自然度とはまったく関係がないのである。